シタル師)ヲ中央トシテ踊手一同會場ノ中央ニ一圍ヲナシ、最初祈禱樣ノ「ヲナシタル後一聲ノ號令下ルヤ否ヤ、四方ニ散開シテ四人ヅヽ組ヲ成シ八組トナル、既ニシテ中央ノ柏子取ノ歌ニ伴ヒテ一同歌ヒナガラ靜ニ棒ヲ交叉シ始ム、愈佳境ニ至ルニ從ヒテ歌ハ益々聲高ク、調子ハ益々早ク打合ハスル棒モ亦早クナルナリ、最後ニ至リ棒ハ甲組ヨリ乙組、乙組ヨリ丙組ト取リ亂レテ互ニ打合ハスナリ、ソノ有樣ハ恰モ擊劍スルガ如シ、而レドモ一々節度ニ協ヒ一人トシテ亂ルヽモノナシ、若コノ時過チテ打タルヽコトアルモ苦情ヲ唱フルヿヲ得ズ、ソノ熟練シテ巧妙ナルコト實ニ驚クニ堪ヘタリ、斯クシテ會終レバ來觀人ハ夫々ソノ日ノ饗應ヲ受ケテ歸ル、翌日モ亦跳リ大抵三日位ニシテ止ム、半歲ノ稽古モ亦此ニ至リテ留ム、

擊劍

彼等ハコノ舞蹈ノ稽古ヲ始ムルトキハ一切交合ヲ禁ゼラルヽナリ、若交合スルモノアルトキハ忽チ除カレ且ツ大ニ擯斥セラレ、コノ擯斥ヲ受クルヲ以テ一生ノ恥辱トナス、故ニ六ケ月間ハ房事ヲ愼マザルベカラズ、之ニ因リテ考フルニコノ跳ハ迷信上ノ旨趣ヲ有スルモノタルヿ疑ナシ、コノ舞蹈ヲ名ヅケテ「ぼくるころころる」ト云フ、最上等ノ踊ナリ、之ヲ要スルニ何レノ地ニ在リテモ凡テ舞蹈ハ幾分カ淫事ノ媒助タルモノナリト雖モ、本群島ノ如キハ殊ニソノ觀アリ、因ニ記ス、昨年末ニ當リ東京其他ノ地ニ於テ「さいばん」島ヨリ渡來セル四名ノ「かなが」土人ハ、是等ノ舞蹈ヲナシテ公衆ノ觀覽ニ供セリ、

一生ノ恥辱

ぼくるころころる

歌

歌ニツキテ　歌ハ長歌端歌ノ如キモノナルモ了解シ難シ、彼等ハ些末ノヿトモ直ニ歌トナシテ詠ズ、亦風流ト云フベ

シ、而レドモ歌ハ固有ノモノニシテ決シテ改正變更スルコト能ハズ、今舞踊ニ用ル歌詞ノ一例ヲ記サム

ろーやう、びーれい、ぬくらい、いまれい、おむかーべ、れびん、にーね、どーどれい、

右ハソノ一例ヲ示シタルモノニシテ、ソノ歌詞ノ意ハ、男子ガ豫テノ契約ニヨリテ女子ノ許ニ忍ビシニ、案外ニモ拒絶セラレ、男子ハ失望ノ極茫然トシテソノ處ニ坐シ手ヲ振リ首ヲ搖カシテ歌フ、意ニシテ是前ニ記シ、所ノ手及頭ヲ振リ動カストキノ跳ニ用ル歌詞ナリ、次ニ記ス所ノ歌詞ハ悲哀ノ時ニ用ルモノナリ、

失望ノ歌

悲哀ノ歌

をむかーめー、をむかーめー、れびれー、

コノ歌詞ノ意ハ、彼ノ人遂ニ逝ケリ、嗚呼悲シキ哉ノ意ナリ、

婚姻

結婚

發達非常ニ早ク、女子ハ七八オヨリ男子十二三オニテ結婚ス、而シテ結婚スルニハ一定ノ法式ナク只雙方ノ両親之ヲ承諾セバ行ハルヽナリ、ソノ許ヲ得ルトキハ親戚朋友ヲ招キテ饗應スルヲ常トス、結婚ノ儀畢ルトキハ近村ヲ伴ヒテ旅行ヲナス、然レドモ共ニ手ヲ携フ等ノコトナシ故ニ外見親睦セルモノト思ハレズ、コノ旅行ハ蜜月旅行(はねむーん)トモ云フベキナリ、

自由結婚ハ道義心ニ反ムカス

はねむーん

出産

出産

出産ニツキテノ風習ハ、本邦ト殆ト異ナルコトナシ、スナハチ産婆トモ云フベキモノ一村ニ一二人アリテ産婦ヲ看護シ、男子ハ一切近寄ルコトヲ得ズ、出産シタル嬰兒ヲバ直ニ冷水ニテヨク洗ヒ決シテ温湯ヲ用ルコトナシ、産婦ハ一ケ月程外出スルコトナク、三ケ月ハ漁業ニ出ヅルコトナ、シソ

ノ乳ヲ以テ養育スルコトハ「まりあな」群島ト異ナルコトナシ、

教育

教育

本群島ニハ教育ト云フベキモノナシ、然レドモ「はねびし」「やつぶ」ニハ西班牙國ノ政廳アリテ知事アリ、又政府ヨリ派遣シタル「かとりつく」ノ僧侶アリテ冠婚葬祭ヲ司ルコトハ、「まりあな」群島幷ニ「ぐわむ島」ニ於テ詳シク説明シタル如シ、

宣教場

其ノ他「つらつく島」ニテハ新教ノ宣教師來リテ教育ニ從事セリ、ソノ宣教場ハ該島中ノ「わな島」ニアリテ洋風ノ家屋二棟土風ノ大家屋一棟アリ、前者ハ宣教師ノ住所ニシテ後者ハ教場ナリ、

ろーがん師

曾テ十數年以前ニろーがん師ト云フ亞米利加人米國遣外傳道會社ヨリ派遣セラレ種々苦心ノ末コヽニ教場ヲ構ヘテ文字ヲ製シ土人語ノ、福音書、及讃美歌、讀本、算術、「つらつく」群島ノ地理書等ヲ製シ熱心ニ土人ニ教授セリ、彼等土人ノ好奇心ハルヨク彼等ヲ驅リテ多ク耶蘇教ニ歸依セシメ、日曜日ノ如キハ會堂ヘ禮拜スルモノ一時ハ三百人ニモ達セリト云フ、其後五ケ年ヲ經テろーがん師ハ病ヲ以テ本島ニ仆レタリシガ土人之ヲ小山ノ高所ニ埋葬セリ、當時土人ハ皆之ヲ悲ミテ恰モ父母ヲ失ヘルガ如ク啼泣シテ惜ク所ヲ知ラザリキ、ソノ墓碑ハ今モ儼然トシテ建チ長ヘニ其功績ヲ表彰セリ、ソノ相續者トシテしねるりんぐ夫婦幷ニさにー孃

しねるりんぐ夫婦
さにー孃
ゐべる孃

ゐべる孃ノ四人來リ先師ろーがんニッギテ熱心ニ土人ヲ教導セリ、然レドモ土人ハコノ宗教的教育ノ窮屈ナルヲ嫌厭セシカ、或ハ一時ノ好奇心ヨリ初メノ程ノミ熱注セシモノカ日々ニ墮落スルモノ多ク今日ニテハ日曜毎ニ禮拜ニ

宣教師ノ熱誠

出ヅルモノ五六十人ニ過ギストト云フ、然レトモ宣教師ノ堅忍不拔ナル毫モ是等ノコトニ失望スルコトナク、益々教育幷ニ宗教ヲ擴張シテ眞ニ天帝ノ存在ヲ知ラシメムコトニ鞠躬盡力シ、ソノ手段トシテ小兒ハ之ヲ両親ニ乞ヒテ男女ヲ問ハズ之ヲ寄宿舍ニテ養ヒ置キ其ノ之ヲ教育スルコト頗ル懇篤丁寧ニシテ、一定ノ規律ニヨリテ教導セリ、加之食料衣服ヨリ其ノ他萬般ノ日用品ヲ給シ務メテ蠻風ヲ除去セムコトニ盡力セリ、サレバ喫煙淫事ヲ始メトシ、其他ノ蠻習ハスベテ之ヲ禁ジ、若シ之ヲ犯セバ忽チ神ノ冥罰アルコトトシテ諭セリ、然レドモ他ノ陋習ハ兎モアレ淫事ニ於テハ彼等壯年ニ達シ春情勃如トシテ自ラ禁ズルコト能ハス、

破門者多シ

ソノ結果遂ニ近隣ノ女ニ私通シ破門セラルヽモノ十中ノ七八ヲ占ム、教師ノ失望、落膽實ニ察スルニ餘リアリ、可憐永年、間衣服食料ヲ給シ漸ク相當ノ教育ヲ受ケ得ルニ至リテ再ビモトノ未開ノ境域ニ沈淪スルコト、然レドモ教師ハ敢テ意ニ介スルコトナク益鋭意シテ之ニ從フ、ソノ堅志力行ナル實ニ感ズルニ餘リアリ、

教科

生徒在校中ハ、地理、讀書、算術、讃美歌、「ばいぶる」等ノ土語ニ譯シタルモノヲ教フ、大抵三年ニシテ卒業ス、コノ期ニ至レバ

修業年限

宣教師仲人トナリテ女生徒ノ卒業生ヲ娶ラシメ、共ニ地方ニ派遣シテ傳道教育ニ從事セシム、斯ノ如キ土人ノ宣教場現時「つらつく」群島中六ケ所アリ、皆何レモ好成績ナリ、サレドモ是レソノ小部分ニシテ「つらつく」群島中ニテモソノ大半ノ野蠻ナルコトハ殆ト猿猴ト異ナルコトナシ、コノ曚昧ノ土人ヲ悉ク教化スルハ實ニ至難ノ業ニシテ少クモ一世紀ヲ費サヾルベカラズ、宣教師モ亦向フ五十ケ年ヲ經ナバ

幾分カ進化スルナラムト云ヘリト云フ、

因記　布哇傳道會社ヨリハ、毎年二回「もうにんぐすたー」(曉星ノ義)ト名クル半蒸氣半風帆船(容載五百噸位)ヲ北緯ノ微小州列島ニテ布教ニ從事スル米國宣教師ノ需要品ヲ供給スル爲ニ諸群島ニ回航セシム、コノ船ハ布哇耶蘇教信者ノ喜捨ニヨリテ製シ且ツ維持セラルルモノナリト云フ、實ニ米國人ノ宣教ニ熱心ナル、之ヲ「ぐわむ」「ばねび」「やつぷ」諸島ニテ政府ノ保護ヲ受ケナガラ强請的ニ土人ニ重税ヲ課シシカモ一ツモナスナキ西班牙僧侶ニ比スレバ、實ニ月旦霄壤モ啻ナラザルナリ、

米人ノ博愛心

言語

言語

群島ニハ固有ノ土語アレ共各島ヲ通ジテ一ナル能ハズ今一々記スルハ頗ニ堪ヘズ只英語ハ不完全乍ラモ至ル所之ニヨリテ用ヲ辨ズルコトヲ得、其ノ目的ノ通商ニアルモノハ一々土語ニ通ゼズトモ英語ノミニテ充分ナリ、若シ之ト反シテ一島ニ在留シテ商業ヲ營ミ或ハ開墾ニ從事セムトスルモノハ必ズシモ土語ヲ研究スル必要アリ、畧英語ヲ解スルモノハ土語ヲ知ルコト六ケ月ニテ充分ナリ、

文字

文字

カヽル未開ノ地、文字アルベキ理ナシ、只「ぱねび」「やつぷ」ハ西班牙僧侶アルヲ以テ西班牙字ヲ用キ、「つらつく」「くーさい」ニ於テハ亞米利加宣教師渡來以來ABCヲ土語ニ適合シテ綴字法ヲハジメタリ是ニ於テ文字始メテ「かろらいん」ニ生出セリ、然レドモソノ之ヲ知ルモノハ只教育ヲ受ケタル極メテ僅少ナルモノノミニシテ他ハ毫モ之ヲ解スルモノナク眞ニ無學文盲ニシテ世界中我ガ島ヨリ大ナルモノナク、

文字ノ起源

井底ノ痴蛙

又強キモノナシト思ヘリ、笑止ニ堪ヘザルハ時ニ外國船來リテ飲料ノ水ヲ酌ミ取ルヲ見テ、「汝ノ國ニテハ水盡キテコノ處マデ酌ミ取リニ來リタリ」ト云フコトサヘアリ、又或時ニハ周回一二哩許ノ島ヲ指シテ日本ト何レカ大ナルカヲ問フコトサヘアリ、コレ等ノ点ニ於テハ「まりあな」群島土人遙ニ進化セリト云フベシ、又群島ニハ年月ナキガ故ニ、宣教師ノ薫陶ヲ受ケタルモノヽ外ハ已ノ幾才ナルコトヲ知ラズ、幾日ヲ以テ一ケ月トナスベキコトヲモ知ラズ、只月ノ盈虛ヲ數フルバカリナリ、コレヲモ數回重複スルトキハ數フルコトヲ忘ルナリ、

數ノ觀念ナシ

因記　米國宣教場ニ在ル處ノ生徒ノ衣服ハ、男女共ニまりあな風ノ衣服ヲ給セラレ、稍野蠻ノ體面ヲ脫セリ、

もーつらつく

「かろらいん」群島中ニテモ、「もーつらつく」「すとろんぐ」等ノ土人ハ、概ネ耶蘇新教ノ米國宣教師ニ教化セラレテ幾分カ進歩セルモノアレドモソノ大部分ニ至リテハ實ニ驚クベキモノナリ、而シテ當群島中島々ニヨリテ各人情風俗ヲ異ニス、例セバ「つらつく」群島ノ土人ハ常ニ鬪爭ヲ好ミ之ヲ職業トナス、如キ觀アリ、然レドモ決シテ外洋ニ出ヅルコトナシ、ソノ他ノ島ニテハ彼ノ風帆「かのー」ニ乘ジテ遠ク數百哩ノ處ニ航シ交易ニ出ヅルコトアリ、往年「ぐわむ」島ヘハ毎年「かろらいん」諸島ヨリ「かなか」ノ土人十二三人一舟ニ乘ジ貝類、鼈甲其ノ他ノ土產ヲ齎ラシテ貿易ニ來リシコトアルモ現今ハ外國貿易船ノ往來スルヲ以テ來ルコトナシ「ぐわむ」島迄ハ本群島中最近キ島ニテモ三百哩以上アリ、一ノ磁石ナク又測量器機ナクシテコノ遠程ヲ航スルハ實ニ驚クベク且感ズベキナリ、彼等ハ湖流及星ヲ以テ方向トシソノ

各島人情風俗ノ比較

「すこーる」ノ將ニ至ラムトスヤ、帆ヲ縮メ大聲ヲ以テ天ヲ祈ル樣ハ實ニ奇觀ナリト云フ、

病痾

痾病

土人ハ常ニ水浴スレドモ決シテ洗フヿナシ、故ニ不潔ナル、コト甚シク從ヒテ皮膚病多シ、恰モ疥癬ノ如クニ皮膚剝ゲ魚鱗ヲ逆ニ立テタルガ如ク氣味アシキコト限リナシ、或ハ

皮膚病

梅毒ノ如ク、或ハ癩病ノ如ク、鼻或ハ手足ノ腐敗シテ欠損スルモノ數多アリ、特ニ足ニハ一種ノ腫物ヲ生ジ漸々腐敗シテ遂ニ骨ヲ露ハスニ至ル、然レドモ彼等ハ藥ナク只ソノマヽニ打棄置クヲ以テ赤色ノ肉ハ恰「ざくろ」ノ如ク一見實ニ人ヲシテ戰慄セシム、サレド彼等ハ平然トシテ之ト起臥シ實ニ憐レナル境遇ナリ、土人ノ語ル所ニヨレバコノ腫物ハ交合後直ニ海中ニ入ルトキハ生ズトイヘド信ズルニ足ラ

「觀者ヲシテ戰慄セシム」

ズ、本島ニハ不具者多ク、天性指ノ三本四本ノモノサヘアリ、然レドモ獨眼盲目者等ハ多ク見ザル所ナリ、當群島ニテモ、「まりあな」群島ニテモ、身体何處トモナク關節ニ苦痛ヲ覺エ

熱病多シ

發熱强キ病氣多シ、(コレ「まらりあ」熱ナラン)前記ノ如ク絶テ醫藥ナキヲ以テ一週間程靜養セバ全癒スベケレドモ、土人ノ無智ナル熱劇シキ時ハ冷水ニ浴シ又裸体ニテ夕暮ニ海濱ニテ涼ヲ取ルナド之ニヨリテ益發熱シ遂ニ斃ルヽモノ多シ、此ノ如キ熱病者ニ少シク解熱劑ヲ與フレバ忽チニシテ全癒スルコト實ニ驚クニ堪ヘタリ、下痢モ亦多ク之ガ爲ニ命ヲ殞スモノ少カラズ、野蠻人ノ常態トシテ外症ハ直ニ全治スルノ觀アリ、曾テ「つらつく」島ニ於テ一土人ガ戰爭中ニ銃丸ヲ膝ノ中央ニ受ケソノ彈丸骨ノ間ニ止マリシガ、醫藥ナキヲ以テ或草ノ絞リ汁ヲ塗抹シ或ハ多ク集リテ平癒

解熱劑ヲ與ヘヨ

下痢

ノ「まじない」ナドナシ、ガ、奇怪ニモ一ケ月許リニテ全ク平癒セシト云フ、

宜シク救護法ヲ案スベシ

之ヲ要スルニ、簡單ナル醫藥ヲ服スルコトヲ彼等ニ教ヘ、彼等皆之ヲ信ジテ服スルニ至ラバ可憐ナル土人ノ生命ヲ救ヒ彼等ノ信服ヲ得ムコト、蓋シ難事ニアラジ、

迷信

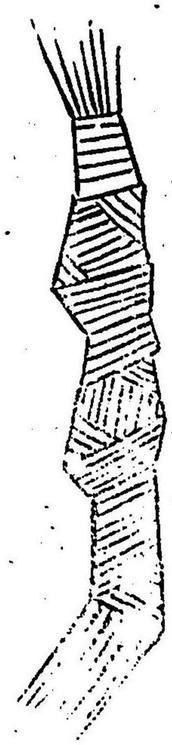
迷信

彼等若人ヲ殺ストキハ、ソノ加害者ハ土語「あぬ」ト云フ神ヨリ冥罰ヲ受ケ遂ニ落命スルニ至ルト信ゼリ、「あぬ」トハ幽靈ノ如キ神ヲ意味スルナリ、又本邦迷信家ノ唱道スル如キ幽靈アルコトヲ信ゼリ、土人ソ言ニヨレバ本島ノ幽靈ハ裸体ニシテ手ヲ拱キ頭髮ヲ垂レ夜半人家ヲ襲フ、若之ヲ認ムルトキハ必ズ疾病ニ罹ルト、

幽靈

吉凶ヲ豫知スル法

吉凶ヲ豫知スル法　恰モ我ガ國ノト筮ノ如キモノナリ、其ノ法先ヅ椰子ノ若葉ヲ取リ、之ヲ細長ク裂キ口中ニテ咒文ヲ唱ヒ後之ヲ結ブ、ソノ結ブ時ニハ凡テ他事ヲ考ヘ居テ決シテソノ結ブコトニツキテ考慮セズ、ソノ結ビ終ルニ及ビテ恭シクソノ結ビ目ヲ數フ、ソノ法五ケノ結ビ目ヲ以テ一節トナシ、シソノ終リニ殘リタル端數ガ若偶數ナレバ吉トナシ、奇數ナレバ凶トナスコノ偶ヲ吉トナシ、奇ヲ凶トナスハ、有婦無婦ニ像リタルナリト云フ、コノト筮ハ些末ノコトニモ用ユルナリ、



八卦

八卦　恰モ我邦ノ八卦ノ如キ複雜ナルモノナリ、乃前法ノ如ク其ノ結ビ目ヲ數ヘテ得タル數ノ奇偶ヲ見、次ニコノ卦化シテ何ノ卦トナリ、更ニ化シテ何ノ卦トナルト云フ如キ

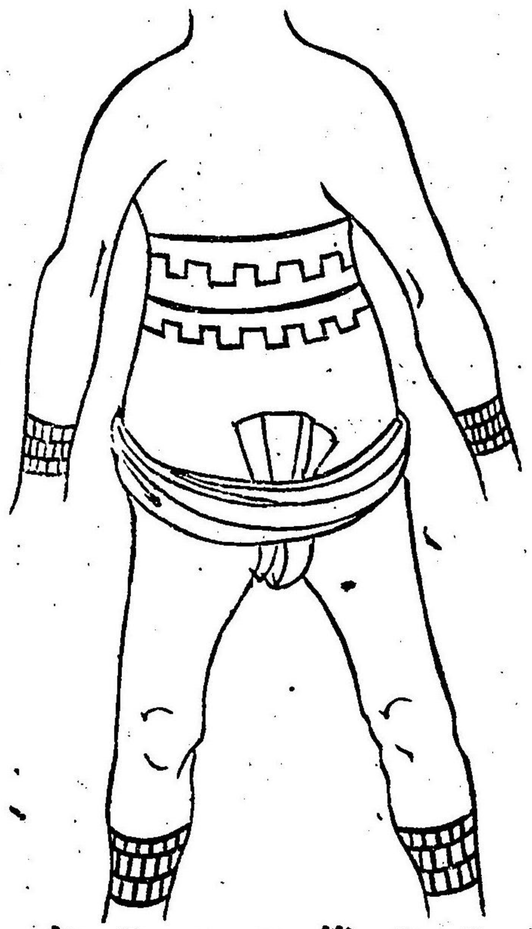
頗ル陰陽メキタルモノナリ、

あぬおろし

「あぬ」おろし　前記ノあぬヲ招キテ吉凶ヲトスル法ナリ、此ノ時ニハ部落中ノ重ナルモノ一堂ニ會集シテ本邦ニテ「稲荷れろし」巫女ノ如キコトヲナシテ「あぬ」ヲ呼バシム、其ノ「巫夫（イチコ）」ハ、場ノ中央ニ坐シテ暫時祈禱ヲナセバ忽チ大聲ヲ發シ両手ヲ堅握シ強ク之ヲ振リナガラ呼吸アラクシ、我ハ汝ノ信スル「あぬ」ナリ、トテ種々ノ吉凶禍福ヲ敎授シテ后「あぬ」ハ立チ去ル、其ノ後當人即「あぬ」ヲ呼ビタル者ハ恰モ死人ノ如ク、其ノ儘地上ニ昏倒ス、衆之ヲ介抱シテ蘇生セシムレバ其ノ何カナルコトヲ言ヒタルカヲ知ラス、本邦ノ「かみをろし」ト同一ナルハ奇ナリト言フベシ、

文身

野蠻人ノ常トシテ、本群島土人モ亦文身ヲナセドモ、南緯諸島ノ如ク甚シカラズ、本群島ニ於テハ、胸、及腹、手、足、等ノ局部分ニ施シテ背ニ施サズ、コハ線狀ノモノヲ描キテ、花島ノ如キモノヲ描クニアラズ、女子ニモ亦之ヲ施ス、男子ト異ナラズ、手足ノ甲ニハ、小兒ニモ亦之ヲ施スヲ見ル、舞蹈ノ際ニ文身ナキモノハ裝ナキトテ人ノ笑ヲ受クルコトアリ、文身ノ方法ハ木炭ヲ水ニ解キ木片ニテ皮膚ニ思フトコロノモノヲ描キ「たれんじ」樹ノ棘ヲ以テ



皮膚ヲ刺シ其ノ出血スルニ及ビ墨ヲ塗リ、斯クスルコト五六回ナレバ、墨ガ皮膚ニシミコミテ美ナル文身トナルベシ、

燧木法

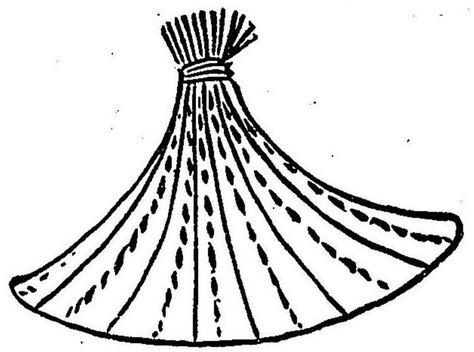
燧木法

コハ燐寸輸入以前ニ行ハレシ方法ニシテ、現今ハ之ヲナストト少シ、其ノ方法ハ、木片ニ溝ヲ穿チ、別ニ小木片ノ尖端ヲ以テ其ノ溝ヲ摩スルコト暫クニシテ其ノ溝ニ粉末ヲ生シ益々摩シテ止マザレバ其ノ物發火スベシ、之ヲ椰子ノ外皮ニ移シテ焚キ付ク初メ燐寸ノ輸入セラレタルトキハ土人ハ之ヲ「あぬ」ノ仕業トシテ恐レタリシガ、漸々其ノ用法ヲ知リ之ヲ寶物トシテ大切ニ取扱フコト見ルモオカシキ事ナリ、

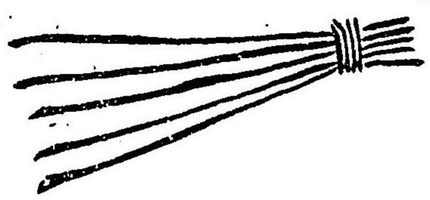
頭髮

頭髮

彼等ノ髮ハ、幼ヨリ斬ルコトナク、又洗フコトモナシ、男女共ニ長クシテ虱群居セリ、暇ニ任セテ之ヲ取リ食フコト猿ニ異ナラズ、男子常ニ櫛卷ノ如ク椰子ノ繩ニテ結ビ、土人製ヘ櫛ヲサス、其ノ椰子繩ハ石投ニ用キルモノニシテ爭フトキハ之ヲ解キ亂髮トナル、櫛ハ重ニ「まぐろふぶ」ヨリ製シ、長サ五寸、巾五分乃至六分ナリ、多ク五齒ナリ、然レドモ中ニハ長サ一尺、巾一寸位ニテ、十齒又ハ十二齒ヲ具フルモノモアレドモコハ度外ナリト知ルベシ、女子ハ櫛ヲ用キズ垂髮ナリ、髭ハ長ク蓄ヘドモ稀ニハ玻璃ニテ之ヲ剃ルモノモアリ、(島ニヨリ女子ノ頭髮ヲ切リテ本邦ノ下ゲ髮ノ如クナス處アリ)



笠



櫛

傘笠

我ガ古代ノ陣笠ニ似テ「ばんだな」ノ枯葉ヲ以テ製ス、男女共ニ漁獵ノ際ニハ之ヲ被ルヲ常トス、輕クシテ頗ル便利ナリ、之ヲ製スルニハ殆ト一ケ月ヲ要ス、「もーとらつく」ノ土人ハ最巧ニシテ之ヲ盛ニ製造シテ他島ノ貨物ト交易セリ、

貿易ノ實況

群島中ニテ「ぱねび」及「やつぷ」ハ、明治十五年頃ニ西班牙ヨリ政廳ヲ置キテ「なにら」ヨリ二ケ月毎ニ定期船ヲ通ハスコトニ定メシヲ以テ、定期船ノ齎シ來ル貨物ヲ買受クルコト恰モ「ぐわん」島ノ如シ、然ドモ他群島ハ只外國ノ帆船ヲ通ズルニ過ギザルノミ、抑日本人ニシテ本群島ニ通商ヲ企テシ初メハ服部新助氏ニシテ、之ヲ亞グヲ田口卯吉氏トス、現今之ニ從事セルモノハ長明丸(百三十噸)ヲ有セル紀州日置合資

會社一個アルノミナリ、「ぱねび」島及「とらつく」島ニ商店ヲ開キ土人ノ物品ト我ガ貨物ト交換ス、「ぱねび」ニハ同會社ノ店員二人ト外一名ノ日本人ノ滯在スルノミナリト雖、「とらつく」ニハ獨立シテ營業セル日本人十二三人モアリ、コレ等ハ皆仲買或ハ賣子ト稱スベキ者ニシテ、本邦船舶ヨリ貨物ヲ受ケテ彼ノ貨物ト交易スルモノナリ、其ノ他松坂丸トテ百四十噸積ノ商船「ばらお」諸島ニ交通スト雖モ微々トシテ振ハズ「やつぷ」島ハ初メ一二回程本邦船ノ寄港セシノミニシテ未ダ商店ヲ開始スルニ至ラズ、

日本人會「とらつく」島ニハ、本邦人互ニ競爭ヲ生ジ漁夫ノ利ヲ外人ニ占メラルヽコトヲ慨シ、日本人會ナルモノヲ組織シ此ノ處ニアル日本人ハ皆之ニ入リテ團結セルヲ以テ現今ニテハ大ニ勢力ヲ占メ外人ヲ壓スル有樣ナリ、「かろれん」群島ニ在

奮勵一番ヲ要ス

至便ニシテ容易ナル貿易

留シテ商業ヲ營マント欲スルモノハ堅固ナル一ツノ端艇ナカルベカラズ、毎日之ニ商品ヲ積セ土人ノ雇人ヲ伴ヒ島々ヲ巡航シ程ヨキ海濱ニ至リテ端艇ヲ繫ギヲカバ、自己ハ舟中ニ默坐ストモ土人ハ小舟ノ來ルヲ見バ爭ヒテ椰子ノ果實ヲ齎シ來リ自己ノ欲スル物品ト交換シテ去ル、其ノ交換セシ物品ハ之ヲ小舟ニ積ミテ歸村ス、人心實ニ純樸ナルヲ以テ何品ハ椰子何個ト定メヲカバ雇人悉皆之ヲ承知シ別ニカケヒキナク無造作ニ交換スルコトヲ得ルナリ、歸村ノ後ハ雇ヒタル土人ヲシテ皆陸ニ上ゲシメ後之ヲ「コプラ」ニ製造スルナリ、「コプラ」ハ之レヲ蓄積シ置キテ船舶ノ來航アリシトキニ之レヲ賣リ渡シ更ニ貨物ヲ受取ルベシ本邦ヨリ供給スル物品ハ繩、莨、耕金中、釣晒、天竺南京玉、位ノモノニテ其ノ交換シテ我ニ取ルベキモノハ重ニ椰子ノ實ナリ、其ノ交易スベキ價ハ大抵葉ノ百斤一圓位ナリ、之ヲ日本ニ持チ來ルトキハ四圓五十錢乃至五圓ニ至ル、

其ノ他、蝶貝「あいぶるなつつ」、「海參」等ト交換スルコトモアレドモ是等ハ余リ多額ナラズ、出入スル船舶ハ「まにら」ヨリ二ケ月毎ニ「ぱねび」及「やつぶ」ニ來ル滊船ト其ノ他數雙ノ小帆船トアルノミナリ、

物産

物産ハ甚多ク、椰子、「ぶれつどふるーつ」、「あいぶるなつつ」、「てーく」、南瓜、西瓜、ノ如キ陸産物アリ、蝶貝、鮫海參、龜甲、等ノ如キ海産物モアリ、製造品ニハ籃、笠、鉢「かのー」數物、等アリ、輸出品中ノ第一位ヲ占ムルモノハ、「こぷら」ナリ、龜甲「あいぶるなつつ」之レニ次グ、然レドモ「あいぼりなつつ」ハ帆船ニ依リ輸入スルトキハ長日ヲ要スルニヨリ乾キ過ギテ細工ニ便ナ

輸出品

ラズ、且容積大ナルヲ以テ勢ヒ不廉ナラザルヲ得ス、故ニ大抵ハ「ぱねび」島ノ外、商ガ定期船ニ托シテ輸出スル位ニシテ日本ニ持チ來ルガ如キコトナシ、

蝶貝「きんこ」ノ如キモ僅少ニシテ論ズルニ足ラザルモノナリ、「籠甲」ハ「ぱねび」島及「ばらを」島ニ最モ多シ「ぱねび」「やつぶ」等定期流船交通ノ便アル處ニ於テハ「ぐあむ」島ト同シク通貨アレトモ、其他ノ島嶼ニ於テハ凡テ物品交易ナリ、今本邦ノ物品ヲ交換スル價格ノ標準ヲ左ニ掲グベシ、

價格表

「なはたばこ」	一本	椰子 一〇個
「ふるしやつ」	一枚	仝 一〇〇
雲齊四「やーる」		仝 四〇〇
緋金巾四「やーる」		仝 二〇〇
晒天竺四「やーる」		仝 二〇〇
南京玉一連(七寸位)		仝 二〇
瀬戸「しやつ」鉢一グロス		仝 一〇〇
「まつち」小箱一個		仝 二
釣(二本乃至四本)		仝 一〇
小鏡	一枚	仝 二〇

椰子果ハ二百五十乃至三百個ヲ以テ「コプラ」英百斤ヲ得、百斤ハ本邦ニテ四五圓ノ價ナリ、

言語ノ比較

各島ニヨリ異同アレドモ今其ノ一般ヲ擧グレバ左ノ如シ

えつと	たーる	わん	ふわん	わん
一	二	三	四	五

おぬ　百九十八
ふーす　六
わぬ　七
てゆー　八
ねでーる　九
えでーるめえう　十
えでーるめるら　十一
ゐでーるめうるがお　十二
えでーるめるーやる　十三
ねでーるめりひ　十四
えでるめをぬ　十五
ねでーるめふーす　十六
えでーるめねゆー　十七
る　十九
るねめえう　二十
いきーた　二十一
ふろいく　三十
りめ　四十
をれ　五十
ふいはく　六十
わにとく　七十
てゆね　八十
ねぶり　九十
るゐぶ　百
うるぶく　二百
うゐぶく　三百
　四百
　百九十九

わめぶり　二百
をれぶく　五百
ふぶく　六百
わねぶく　七百
てねぶく　八百
ねがら　九百
るねがらう　千
うるがらう　二千
ねちや　三千
るうあちや　一枚
えはつ　二枚
るーはつ　一本
えめん　二本
一人

るえめん　二人
ねがつつ　一個
るうがつ、　二個
いけらい　今日
なうのて　明日
ぶんのん　明后日
ぶんのん、なうして　明后々日
ぬーしよん　朝
ねつくれをん　夕
ねやろつかん　晝
ねしようねむ　御早う
らーらとむ　今日は
ねぼかねむ　今晩ば
二百一

左樣なら　ちーねむ
人　まん
男　めいろ
女　ふえーふいん
小兒　やつと
娘　なんぎん
赤子　ゆるこむ
兄弟姉妹　ぷい
母　いーなん
父　せめん
老人　ちんなつぷ
身体　いにーん
顔　めしやつ

頭髮　まくらつ
耳　せうがん
目　ふをーるめしやう
口　あをい
齒　にぎい
手　ばうん
足　べてい
指　あうどる
爪　うつき
雷　ばつん
太陽　あつかる
月　まらむ
星　ふーう

なん　天
くわ　雲
こくる　水
あつかる　火
しやつ　海水
りいきいちや　海
び　砂
ねつぴ　海岸
ふあむあゝん　地球
いーむ　家
るぶん　（アイボリナット樹葉家根）
あしやひ　戸
ねちーぐ　敷物

えん　汝
んがぐ　私
ふえつと　來れ
ふえんのー　行け
にゆつと　歸れ
わーと　持ち來れ
うーら　持ち行け
いぶがろつく　與へる
むつてる　早く
むつてるど　最も早く
うて　待て
しゆーしゆー　退け
けれーまー　道中氣を付けよ

のむ
いね〳〵
にうれん
こぼれや
えんこつく
うくで
をぶごしろ
すゆーぎ
いふかい
えしをーるなきやなしいけいいけら
ねいりや
あろりや
いふあいだん

二百六
舊
今
歳日
何處に行く
遲く
止めよ
閉づる
開け
何處
此處
誰
誰が言ひしか
汝の名は何といふか

いだん
なをりや
ねい
まいざ
うぶらうり
いんとーがり
かばし
しれんなつぶ
まのあー
まけん
あちやう
めーしん
うじいん

名
誰に屬するか
私に屬す
客商
私に與へよ
出來た
話し
賢き
馬鹿
虛言
眞實
知る
知らぬ
二百七

れきれん
りき〳〵
かま
まーり、
あつかつしにる
わらかむ
うー
あーぷい
ぱた
あーで、
のどう
やーる
ふんねすん

二百八
考ふる
注意
買ふ
賣る
交換する
有難く
然リ
否
何故
東
西
南
北

第三章

本邦人ノ群島貿易ニ關スル沿革并ニ今後漸易者ノ取ルベキ方針

今從來我邦人ノ群島貿易ニ關セシ顛末ヲ見ルニ、未ダ頗ル幼稚ナルヲ免レズ、始メ下總ノ人服部新助ナル者アリ、自ヲ小帆船ヲ有メ、常ニ東京及小笠原諸島間ヲ通商セシガ、每年春期ノ交英米諸國ノ鯨獵船ノ薪水ヲ得ンガ爲ニ小笠原父島ニ來ル者ノ常ニ甲殼、海參、貝類等ノ物產ヲ齎スヲ見テ、之ヲ糺セシニ南方遙カニ「センチン」（「ポチヒ」島ハ英名之レヲ「アツセムション」ト云フ「センチン」トハ「アツセムション」ノ訛傳ナリ）「グアム」等ノ諸島アリテ此ニ於テ交易スル者ナルコトヲ聞キ、明治二十一年自ラ其所有船相陽丸（三十二噸積）ニ搭ジテ「かろらいん」群島中ノ「ぽぬぴ」「とらつく」諸島ニ至リ其ノ有利ナルヿヲ確カメ歸リテ之ヲ說クヤ、一時ニ本邦人ノ注目

恒

ヲ引クニ至リ、田口卯吉氏ノ南島商會設立天祐丸ノ巡航トナリ、次デ偕信會社ノ起業トナリ、一時ハ其熱度囚ル盛ナル如クナリシモ、南島商會ハ資金ノ爲メニ物議ヲ招キ其業ヲ繼續スル能ハズシテ止ミ、東京小美田氏ノ一屋商店ナル者其ノ後ヲ受ケテ明治二十八年ニ至リテ之レヲ東京金十社ヘ讓渡シ金十社ハ現今尙之レニ從事セリ、偕信會社ハ船舶海一丸ノ難破其他ノ事情ノ爲メニ萎微トシテ振ハザルモ今尙ホ松坂丸(百七十噸)ヲ以テ「ペリユー」諸島ノ通商ニ從事シツヽアリ、(偕信會社ハ初ヲ榎本武陽子ノ尽力ニ依リ二十餘名ノ組合ニヨリ業ヲ起セシモ半途資本主間ニ分離ヲ生ジ現今ハ横鳳東作氏ノ有トナレリ、野中南洋商會主野中萬助氏金十社ノ水谷新太氏ノ如キモ始メハ同社中ノ者ダリシナリ、)次デ、東京開通組ノ開通丸大坂大屋七平氏ノ西別丸(百五十噸)尾張航業會社ノ東海丸(百余噸)紀州日置合資會社ノ長明丸(百四十噸)東京野中南洋商會ノ湊川丸(百五十噸)等相追フテ群島ニ航シ、時ニハ遠ク赤道ヲ南下シテ南緯諸群島ニ至リシモアリ、頗ル盛況ヲ極メシ如クナリシモ開通、西別、東海ハ、些少ノ障害ノ爲メ事ノ整頓ヲ待タズシテ之レヲ廢シ、湊川丸ハ今尙コレニ從事セリ、而シテ日置合資會社ハ現今長明丸ヲ以テ專ラ「かろらいん」群島ノ通航ニ充テ更ニ順豊丸(九十二噸)ヲ以テ「まりあな」群島ノ航海ニ具ヘ、「まりあな」群島ニアリテハ貿易ノ傍ラ力ヲ開拓及物産採集ニ尽シ、鋭意業務ヲ擴張セリ、而シテ始メテ群島ニ航セシ相陽丸(今ハ永勝丸ト改ム)二十八年中服部新助氏ノ死後ハ東京金十社ニ依リテ天祐丸ト共ニ事業ヲ繼續シテ今日ニ至レリ、其他現今計畫中ノ者アレトモ未ダ發表ノ聲ヲ聞カズ、之レヲ要スルニ本邦人ノ南島通商事業ハ從來多クハ好果ヲ見ズシテ中道ニ挫折セシ者ノ如シ而シテ本邦人ノ健忘性ナル又南洋ノコトヲ口ニスル者ナシ、

然リ而シテ同ジク群島ノ通商ニ從事スル外國人ノ成績ヲ見ンカ實ニ羨ム可キ者アリ、明治十四年頃總ニ一鯨獵船ノ運轉手トシテ群島ニ寄港シ、其ノ爲スアルニ足ルヲ見歸リテ横濱ニ來リテ漸ク老朽セル容積五十噸許リノ小帆船ヲ得、横濱ヨリ群島間ニ通商セシ英人「うゐりあむ」ハ數年ナラズシテ巨額ノ資産ヲ作リ廿三年其死後ヲ承ケ繼グル「はりそん」亦身ヲ無一物ナル日本郵船會社ノ運轉手ニ起シテ今ハ巨萬ノ貯財ヲナシ、而カモ尙盛ニ之ニ從事シツヽアルニ非ズヤ、更ニ香港桑港等ヨリ群島ニ通商スル者ニ於テハ東「かろらいん」ニ於ケル「まらんだ」「じよんば」(日耳曼商會ノ貨物ヲ受ケテ之レヲ貿易ス、日耳曼商會ハ其根據ヲ「にゆーぎにお」ニ於テ南緯諸群島ヨリ北緯「ーましある」「かろらいん」等ノ諸群島ヲ一般ニ通商スルモノニノ數隻ノ滊船及ビ夥多ノ

船ヲ有シテ盛ニ之レニ從事ス)又ハ西部「かろらいん」ニ於ケル「おきーふ」等ノ諸船長ヲ見レバ永年斯業ニ從事シテ各々數萬ノ財ヲ蓄ヘ年已ニ旬ヲ越ユルモ尙ホ鋭意之レニ從事シツヽアルニ非ズヤ、同一地方ニ同一業ニ從ヒ加ルニ彼レハ我レニ比シテ物買不廉ニシテ生活度亦高キニ彼レノ多ク成功シ、我レノ多ク失敗ニ歸セルハ抑モ大ニ困ル所ナクンバ非ズ、今其ノ原因ノ主ナルト思ハルヽモノヲ左ニ記スベシ今後斯業ニ從事センモノ此ノ邊ニ顧ル所アラバ或ハ從來ノ如キ失敗ヲ再ビスルコトナキニ近カランカ、

因ニ記ス　横濱及群島間ヲ通商セシ者ニ「じやつく」ナル者アリ、元ト「うゐりあむ」ノ雇人トノ群島中ニ止マリシモ其ノ死後ハ「はりそん」ト不和ヲ生シ分離シテ別ニ自ラ通商ヲ試ミシモ幾バクモナク死セシヲ以テ止ミタリ)

正宗ノ利刀ト雖儒夫ヲシテ之レヲ用ヒシメバ鈍刀ト何ゾ擇バン、有利ノ業ト雖其ノ方法ノ巧拙ニヨリテハ遂ニ失敗ニ終ルナキヲ保セズ、從來本邦人ノ斯業ニ於ケル斯ノ如キニ外ナラザルベシ、左ニ記スル處ノ如キハ大ニ從來失敗ノ原因タルニ力アルベキヲ信ス、

當事者ニ献身的ノ精神ナキコト、是レ尤モ我ガ邦人ノ彼等外人ニ比シテ劣ル點ナランカ、業ノ何タルヲ問ハズ成否一ニ此ノ精神ノ有無强弱ニ關スルヤ言ヲ俟タズ、ト雖モ斯業ノ如キ創設ノ事ニ在リテハ殊ニ然ラザルヲ得ズ、時ニ强風怒濤ヲ凌ギ野蠻蒙昧ノ土蠻ヲ花客トシテ之レト伍ヲ列チ夢ヲ柳子樹下ニ結ビ、珊瑚畔ニ魚鼈ヲ友トスル如キハ其ノ甘シテ常トスル所ナラザルベカラズ、然ルニ本邦人ノ從來斯ク如キノ處ニ出ツルモノヲ見ルニ身ハ蠻地ニ在ルモ心ハ常ニ故國ノ空ヲ往復シ希フ處ハ只片時モ早ク郷ニ歸リテ夢ヲ花柳ノ街ニ貪ルガ如キノミ、亦他アラザルナリ、隨テ些少ノ障害ニ遭遇スルアレバ忽チ挫折シ未ダ其ノ眞相ヲ極ムルニ及バズシテ中癈スルモノ比々トシテ皆然リ、斯クノ如キノ徒ニ倚リテ斯業ノ成功ヲ待ツ樹ニ倚リテ魚ヲ求ムルト何ゾ擇バン、現今斯業ノ微々トシテ振ハザル實ニ偶然ニ非ルナリ、

當事者ノ群島ノ事情ニ通セザル、是レ亦大ニ其ノ原因タラズンバ非ズ從來群島ニ通商セシ船舶ハ皆支店ヲ「ぐあむ」「さいぱん」「ぱねび」「とらつく」等ノ諸島ニ設ケ、交易ノ事務ハ一切是レヲソノ支店員ニ委任シ、其ノ主トシテ本船ニ乘組ミテ支店員ノ監督、貨物ノ仕入、及賣捌等ノ尤モ緊要ナル事務ヲ統ブベキ主任者ハ却テ群島ノ事情ニ暗ク、一ラ支店

自ノ意見ニ依リテ左右セラル、故ヲ以テ各島ノ店員各々見ル處ヲ異ニシテ連絡ヲ保ツコトヲ得ズ、或者ノ如キハ事務員ヲ設クルコトナク、只船舶ノ運轉ヲ司ルベキ船員ニ其事務ヲ委任シテ顧ミズシテ身ハ鄉ニ止マリテ勞セズシテ只其ノ利益ヲノミ得ンコトヲ計ル者サヘアリ、隨テ支店員中ニハ其ノ主任者ノ事情ニ暗キヲ幸トシ種々ナル弊害ヲ生シ商會ノ利ヨリハ自己一身ノ利ヲノミ、之レ計リ、某商會ノ如キハ「ぱねび」島ニテ已ニ貨物ノ蒐集シアルノ豫定ニテ之レニ航セシニ其ノ店員ハ之レニ先ジテ貨物店具等ヲ舉ゲテ外人ニ賣拂ヒ、其ノ金ヲ懷ニシテ遠ク逃レシ爲メ直チニ挫折シテ事業ヲ中止セルモアリ、又「まりあな」群島ニテハ始メテ通航ヲ開キシ某船ノ第二回目ニ航セシ迄ニハ大半ノ貨物ヲ費消セシ支店員アリテ爲メニ中止セシモアリ、斯クノ如キ場合ニ於テ店員ヲ交代セシメテ更ニ適當ナルモノヲ撰ドハ可ナル如クナルモ、本邦人ニシテ群島ニ在留スルモノ未ダ多カラズ、故ヲ以テ更ニ適當ナルモノヲ得ルニ難ク且ツ新ニ之レヲ航セシメンニモ如何セン本邦中ノ多クハ未ダ進テ斯クノ如キノ蠻地ニ至ルモノナリ、且ツ當事者ノ事情ニ暗キ爲メ止ムヲ得ズ從來諸島ニ在留シテ之レニ通セル者ヲ用ヒザルベカラズ、終ニハ詮方ナリコトヲ癈スルモノアリ、其ノ些少ノ障害ニヨリ脆ク中癈スルハ元アリ忍耐力ナキノ致ス處ナレトモ此ノ如キハ一ニ主任者其ノ人ヲ得ザルニヨリテ起ルナリ、

自ラ進ヲ探撿スルコトナク、常ニ他ノ跡ノミテ遂フコト是レニサ本邦人特有ノ缺點ナルガ如シ、奔道以下ノミニナモ「かろらいん」「ましやる」等ノ諸群島其ノ數幾何ナルヲ知ラ

ズ、更ニ奔道ヲ南下スレバ「そろもん」「びすまーく」等ノ諸群島無數ニ星雀基布セルニモ拘ラズ、從來本邦航船ノ跡ヲ見ルニ自ラ進ンデ新島ヲ探探シテ利益ノ有無ヲ檢スルガ如キコト絶テ無ク常ニ先キニ人ノ慥メタル跡ヲノミ逐フニ過ギス、見ヨ斯業ノ始メテ邦人ニ注目セラレテ以來歲ヲ重ヌルコト十余船舶ノ之レニ航セシモノ亦十ヲ下ラズ、而カモ其ノ航跡ヲ見ルニ僅カヤルニ始メ田口氏ノ天祐丸ニテ巡航セシ「ぱねびし」「とらつく」「ぐあむ」「さいぱん」「ぺりゆー」諸島等ノ數島ニ過ギズ、偶々某船ノ遠ク赤道ヲ越ヘテ南下シ一度ビ大利ヲ見ルヤ一時ニ多數ノ船舶其ノ跡ヲ逐ヒテ之レニ至ル、假命如何ニ有利ナル處ト雖モ素ヨリ最爾タル一小島ニシテ且ツ天産物ニハ限リアルヲ以テ斯クノ如タ急激ニ多數ノ船舶ノ集マルトキハ各船悉ク十分ノ貨物ヲ得ル能ハズ之レヲ得ンニハ勢ヒ長時間ヲ要シ從テ多額ノ經費ヲ費サヾルヲ得スシテ得ル處ハ失フ處ヲ償フニ足ラズ、隨テ互ニ競爭スルノ幣ヲ生ジ遂ニハ各々利スル處ナクシテ終ル、從來ノ本邦航船ハ斯ノ如クニシテ自ラ失敗ヲ招キシ者多シ、斯ノ如キノ幣ハ一ニ主任者其人ヲ得ザルヨリ生ズルニ外ナラズ、「かろらいん」群島無數ノ小島ハ常ニ依給ハ需用ヲ充タス能ハズ悉ク頸ヲ延ハシテ外船ノ來リテ交易センコトヲ翹望セリ、而カモ利ノアル處ハ却テコレ等ノ小島ニ在リ、然ルニ此ノ有利ナル事モ空シク一ニ英米人ノ手ニ委シテ顧ミス、邦人ハ常ニ一小局部ニノミ互ニ競爭シテコヽニ注目スルモノナシ、慨スルニ堪ユベケンヤ、

其他船員及ビ船舶ノ撰擇ニ注意ヲ欠キシ如キモ大ニ失敗ノ原因タラズンバ非ズ、某船ノ如キハ一ケ年ノ經費八千圓

ヲ越ヘン者サヘアリ、僅々數島ニノミ止マル小規模ノ商業ニシテ比較的過大ナル此ノ經費ヲ要ス、假令貨物ニ於テ數倍ノ利アルモ終ニハ損失央バスルニ至ルベシ、コレ本邦從來ノ航船ニ尤モ多キ處ナリ、

概シテ之レヲ云ヘバ、本邦人ノ斯業ニ於ケル失敗ノ原因ハ一ニ當事者其ノ人ヲ得ザルト其ノ方法ノ宜シキニ適セザルニ歸スベシ、徵少州群島小ナリト雖之ヲ更ニ小ナル本邦ノ小笠原島ニ比シ邦人ヲシテ力ヲ尽シテ之ヲ經營セシムレバ大ニ見ル可キノ成積アルヤ論ヲ待タズ、未タ急ニ放棄スベカラザルナリ、(小笠原島ハ砂糖ノミニテ一ケ年ノ產額二十万圓ヲ越ユ)

然ラバ今後群島ニ通商シテ充分ノ利益ヲ得ントスルニハ如何ノ方法ニヨルベキヤ、先ツ堅固ナル容積三十[illegible]乃至五六十同ノ小帆船一雙若クハ數雙ヲ有シ、之ニ群島ノ事情ニ精通セル熱心ナル事務員ヲ乘込マシメ船長ノ如キハ實地經驗ニ富メル者ヲ雇ヒ、水夫ノ如キハ成ルベク土民ヲ用フベシ、是レ本邦水夫ノ常トシテ長ク海外ニ止ルヲ欲セス、僅ニ數ケ月ヲ過クレバ己ニ婦鄉病ノ犯ス處トナリ不平自出使役ニ耐ヘズ故ヲ以テ豫期ノ貨物ヲ得サル場合ニ進テ他島ヲ探ルナ會、若シ本邦人ヲ用フル時ハ十分注意シテ忍耐力ニ富メル者ヲ撰バザルベカラズ、而シテ此等ノ小帆船ハ「かろらいん」群島ニ其以南ノ諸島ヲ巡航シテ貨物ヲ交易シ滿船スルトキハ豫メ置キタル中次地ニ歸リ來リ交易シタル貨物ハ茲ニ積ミ置キ更ニ貨物ヲ齎シテ交易ニ趣クベシ、中次地ハ「くわむ」「やつぷ」「どねへた」島等ノ良港灣アル大島ヲ探ビ茲ニ支店ヲ置クヲ可トス、而シテ本邦ヨリハ更ニ百

五十官乃至二三百求ノ航船ニテ本邦雑貨ヲ齎シテ中地ニ至リ齎セシ物貨ハ之レヲ茲ニ置キ己ニ交易シテ積集シアル貨物ヲ以テ本邦ニ迴航スベシ、即チ小船ハ常ニ群島ニ止マリテ小島間ヲ巡航シ本邦ハ只本邦ト中次地間ヲ往復シテ常ニ連絡ヲ保ツマシ斯クノ如キヲ尤モ完全ナル方法トス、然レトモ斯クノ如キノ組織ハ比較的多額ノ資本ヲ要シ且ツ初メニ於テ適當ナル人物ヲ得ルニ困難ナリ而シテ小ヨリシテ大ニ及ホシ低キヨリ高キニ就クハ物ノ順ナルヲ以テ、先ツ左ノ如キノ法ニヨリテ事ヲ始ノ漸ク事ノ整頓セル曉ニ於テ之ヲ擴張スベシ、

助チ先ツ容積四五十無ノ構造堅固ナル小唯船一雙ヲ有シ、自カラ之レニ乘ジテ「まりあな」「かろらいん」諸群島及ビ其以南ノ諸島ヲ巡航シテ齎セル本邦雑貨ヲ以テ、椰子果、海參、貝類、甲等ノ土産ト交易シ豫期ノ島ニテ十分ノ貨物ヲ得ズンバ更ニ他島ニ航シ斯クノ如クシテ物貨船ニ滿チタルノ後始メテ本邦ニ回航ス、四五十二ノ貨物ヲ得ルニハ長クモ五ケ月ノ日子ヲ費セバ可ナリ、而シテ漸ク事ノ進ムニ隨ヒ「ぐあむ」「はねび」「やつぷ」島等ノ群島中ノ大ナルモノニシテ比較的開化シ居ル部ニ支店ヲ開クベシ、斯クノ如クニシテ支店ヲ設クルトキハ貨物ヲ得ルニ大ニ日子ヲ節スルコトヲ得、而シテ能ク其成蹟ニ考ヘ漸々コレヲ擴張シテ前記ノ如キ組織ハナスベシ、斯クノ如キノ方法ハ僅カニ小ナル船舶一雙ト僅少ナル貨物ヲ以テ事ヲ始ムルヲ得ベシ、而シテ其利益ノ点ヲ見ンカ交易スベキ土産中、其ノ標準トスベモキハ「こぷら」ナリ、「こぷら」ハ何レノ島ヲ問ハズ何ノ時ヲ問ハズ、尤モ多數ニ之レヲ得ヘク、而シテ本邦ニ於テノ需要亦尤

多キヲ以テナリ、交易スベキ價格ハ一樣ナラザレモ「コブラ」百斤(十二貫目)ヲ得ルニハ平均本邦雜貨元價一圓ヲ越ユルヿナシ、而シテ其ノ本邦ニ於ケル直段ハ少クモ四圓五十錢ヲ下ルヿナシ、即チ利益ニ於テ四五倍ヲ得ヘシ假令船舶ノ經費ニ多額ヲ要スルモ優ニ一倍位ノ利益ヲ見ルハ敢テ疑フヲ要セザル處ナリ、而シテ其資本タルヤ僅々數千圓ヲ以テ事ヲ始メ而シテ無限ニ之レヲ擴張スルヿヲ得ヘシ、內地ニ於テ常ニ不景氣ヲ歎ズルモノ何ゾ奮テ斯クノ如キノ業ニ着手セザル、須ラク一帆ヲ驅リテ以テ旭旗ヲシテ普ク大平洋上ノ朝風ニ飜然タラシムヘキナリ、尙ホ終リニ臨デ一言スベキヿアリ從來國ヲ鎖シテ海外ニ出ツルヿナカリシノ餘弊本邦人ハ常ニ海ヲ以テ一ノ魔界ノ如ク思惟シ之レニ航スルモノハ恰モ死地ニ趣ク如ク思フ誤レルノ甚ダシキモノナリ、コレ一ハ本邦近海ノ航路險ニシテ時々船舶ノ難破セルモノアルヿヲ聞クニ慣レタルト一ハ海事思想ノ素養ニ欠クル處アルヲ以テナラン、然レモ南洋諸島ノ航海ハ尤モ安全ニシテ船舶ノ危險ニ瀕スルヿ殆ンド稀ナリ、横濱ヨリ伊豆七島ニ至ルノ間浪波少シク怒ルト雖モ順風ニ駕シテ一帆ヲ驅ラバ直チニ小笠原島ニ達スルヲ得ベク、火山列島ヲ過ギテノ熱帶圈ニ入ルトハ常ニ天與ノ賜タル貿易風ハ布帆ヲミテ進退意ノ如クナラシメ、我國人ノ尤モ恐ルヽ八月ノ交ト雖モ暴風ノ如キモノ少ナク少シノ危險ヲ感スルヿナシ、星光以テ磁石ニ代ヘ、山影ヲ見テ方向ヲ定メン時代ハ已ニ去レリ、航海術ハ造船術ト相並ビテ進化シ大洋中ニアル恰セ陸上ニアルト異ラザルノ今日泛ブル堅固ナルノ船舶ヲ以テセバ何ゾ航海ノ危險ヲ憂フルニ足ラン

ヤ、尙小船ナル丼ハ能ク遠洋ノ航難ニ耐フベキヤ否ヤヲ疑フモノアルベキモ充分船舶ノ危險ニ瀕スルハ決シテ其ノ大小ニ依ラズ、只堅固ナルト否トニアリ、而シテ群島ノ如キ地理ノ未タ委シク知ラレザル處ニ於テ隨意ニ諸島間ヲ巡航セントスルニハ却テ小船ヲ以テ安全ナリトス、群島ハ珊瑚礁多キヲ以テ屹水ノ深キモノハ出入ニ不便ナリ開通丸ノ「とらへく」島ニテ難波セルハコレガ爲メナリ、然レトモ小船ニ於テハ是等ノ危險ヲ招クコト少ナシ、相陽丸ノ僅々三十二噸(二百五十石計)ノ老朽セル者ニシテ十數年以來群島ニ航シテ而カモ未ダ一回ノ危險ニ瀕セルコトナキヲ見テモ如何ニ群島航海ノ安全ナルカヲ證シ、且ツ小船ノ之レニ適スルヲ知ルニ足ルベシ、

明治三十二年六月九日印刷
同　年六月十二日發行

正價三十八錢

編輯兼發行者　佐藤成義　東京市本郷區東竹町三十七番地
印刷者　松井七之助　東京市神田區錦町一丁目十二番地
印刷所　晩翠舍　東京市神田區錦町一丁目十二番地
發行所　大澤屋書店　東京市本郷區東竹町三十七番地

版權所有

大賣捌

東京本郷區東竹町三十七番地　實用商業雜誌社

東京神田區表神保町　東京堂

同　神田區一橋通町　有斐閣

同　京橋區鎗屋町　東海信文合資會社

同　町　合資會社北隆館

名古屋本町三丁目　川瀨代助

其他全國各書林

80
202

80
202

026783-000-8

80-202

南洋事情

西垣 次郎
森川 五三郎／著

M32

ADD-0484